

明治二十二年三月二十二日內務省許可

明治二十六年十二月十五日發行



金澤醫學會集誌

第五卷第四十二號

金澤醫學會

金澤醫學會雜誌第五卷第四十二號目次

◎金澤醫學會

◎天長節を祝ふ

◎據酸謨兒比涅ニ就テ

會員 木村辰治郎

◎栃木縣地方病續報

在栃木 徳木有隣

◎實驗雜俎

◎水泡性結膜炎ニ於ケル甘汞ニ就テ

會員 竹腰慶三

◎内外新説

◎治療叢談

◎骨折診斷ノ一法

◎尿中檢糖法

◎癌腫ノ寄生物ニ就テ

◎肺梅毒ノ一例

◎醫事統計

◎金澤病院外科手術表

◎雜錄

◎本會紀事

◎醫海事報

◎廣告

ニ就テハ其粉末ハ器械的ニ水泡ノ上皮ヲ破潰セシムル
 ニ在リト雖モ他ノ粉末ニ由テ同一ノ効ヲ得ルコト克ハス
 且他ノ水銀劑即チ黃隆汞ノ効アルヲ以テ見レハ化學的
 作用ニ由テ甘汞ハ涙液及他ノ分泌液中ノ食鹽ト化和ノ
 昇汞ニ變スル者ニシテ其發生期ノ昇汞カ本症ニ向フテ
 効ヲ呈スルナラントノ說稍信用ヲ得タルカ如シ未ダ其
 作用ヲ充分ニ説明セシ人ナシ其血管ヲ縮小セシムルノ
 作用ハ著シキ者ナリ

予カ特ニ茲ニ報告セント欲スルハ、甘汞末ヲ撒布スレ
 ハ、粉末互ニ相凝着連結シテ、結膜囊内ニ白色索糸狀
 ナ呈スルニアリ、時トノ粉末相凝着スルモ、凝着片個
 ヲ分存散在シテ、索糸狀ヲ成サス顆粒狀ヲ呈スルコトア
 リ、予カ實驗ニ徴スルニ、其索糸狀ヲ呈スル者ハ、常
 ニ良候ニシテ經過短ク、水泡速ニ消失シ、顆粒狀ヲ呈
 スル者ハ、刺戟症狀甚シクシテ、水泡長ク消失セサル

ヲ見ル。此現象ノ學說ニ至テハ、未ダ説明シ得サルモ、
 恐クハ病症ノ如何ニ由テ分泌液ノ性質ニ關係アル者ノ
 如シ。故ニ予ハ實地上、甘汞撒布ノ現象如何ニ依テ、水
 泡性結膜炎ノ經過ヲ、預知スル事ヲ得ヘシト確信ス」
 (完)

内 外 新 說

◎治療叢談 (十二)

界外仙史

(一) 化膿性横痃ノ療法 W. K. O. 氏ハ既ニ化膿シタ
 ル「ブーボ」ニ沃度仿謨「ワセリン」ノ混和液ヲ注入スル
 法ヲ稱用セリ治癒日數ハ六日―十二日ナリト雖モ時ト
 ノハ二十三日間ヲ要セシコトアリト
 (二) 軟性下疳ノ療法 Canal 氏ハ此症ニ十分ノ石炭酸
 ト二十五分ノ樟腦ヨリナル合劑ヲ稱用セリ又之レヲ化

膿シタル「ブーボ」ニモ用ヘ得ヘシト

(三) 苔疹ノ療法 Page及Jaquet 氏ハ此症ニ温水ノ持續的洗注ノ効アルヲ稱セリ

(四) 軟性下疳ノ療法 Trapeznikow 氏ハ此症ニ「ソツオ」

沃度秦篤利母 Matrinn Soziodolinum ナ特效薬トメ應用セリ

(五) 白血病ニ電氣 Bregg氏ハ此症ニ五—十元ノ電氣ヲ毎日持續シテ治癒セシ患者ヲ報告セリ

(六) 阿片發疹 A. Lanz 氏ハ一患者ニ阿片ヲ用フル毎ニ發疹シ(廣キ紅班狀ノ者)落肖ニ由テ治スル者ヲ經驗セリ但シ之レヲ反復スル時ハ從テ生セリト

(七) 結節癩ニ「オイロフエン」 Golaschmiat 氏ハ結節癩

ニ五%ノ「オイロフエン」油ヲ塗擦及皮下注入トノ應用セシニ非常ノ良積ヲ得タリ之レト同時ニ「ヒオクタニ」ヲ用ヒシモ無効ナリキ

(八) 「アックチノニコローゼ」ノ療法 Buzzi 及 Galli-Vallerio

氏ハ此症ニ沃度加里ヲ稱用セリ

(九) 治癩麻質斯藥 Dr. Ludwig Merk-Graz 氏ハ左ノ藥液ヲ筋「ロイマチス」ニ稱用セリ

ソツオ沃度水銀 〇、八 沃度加里 一、六
留水 一〇、〇

右乳鉢ニテ磨リツ、留水ヲ混シ之レヲ濾過シ疼痛部ニ一箇ヲ注入ス

(十) 蕁麻疹ノ灼痛療法 Bourdeaux 氏ハ此症ニ左方ヲ稱用ス(石灰水、老水及「クリスリン」各百分)ヲ塗布シ綿ヲ以テ被フ

(十一) 「アルムノール」ノ應用 Chotzen 氏ハ三百人ノ患者ニ用テ左ノ成績ヲ得タリ

(1) 「アルムノール」抹ハ龜頭、包皮、及龜冠溝ノ上皮剝脱、軟性下疳ニ効アリ

(2)「アルムノール」ヲ單尼澱粉等分ノ者ヲ以テ十一二十%ノ粉末トナシ「バラニチス」「エルシオン」鼻エクセーム輕度ノ火傷、縫合創面ニ効アリ

(3) 一―五%ノ液ハ鼻エクセーム膿胞性エクセーム顔面ノ「アクチ」「フロンクローセ」腺腫起急性淋疾ニ効アリ

(4) 二、五―十%ノ酒精液ハ「エクセーム」ノ后療法、痔瘻疹掻癢「ファウス」「プソリアジス」ニ効アリ

(5) 二、五―二十%アルムノールヲノリン膏ハ「ゼボルロエ」「プソリアジス」「ファウス」ニ効アリ

(6) アルムノール〇、五留水一、五シリセリン三、〇ヲノリン一五、〇ノ者ハ淋疾ニ用フ

(7) 十%ノ「アルムノール」白降膏ハ梅毒性發疹ニ効アリ

(8)「アルムノール」假漆ハ「アルムノール」「サレップ」

「バツソリン」合劑若クハ「アルムノール、トラカント、サレップ、バツソリン」合劑トノ頑固ノ「エクセーム」ニ用フ

(9) 傳染性皮膚病ニハ「アルムノール」一八、〇リチネ油二〇、〇「コルロシム」一六、〇、〇ヲ用フ

(10) 一―十%「アルムノール」「ゲラチン」挿ハ「頸管カタル」子宮内及瘦管内ニ挿入シテ効アリ

(十一)「オッエナ」ノ防腐的療法 Revue glnerale de clinique et de therapeutiqueノ報スル處ニ依レハ此症ニハ初メ

稀薄ナル處ノ石炭酸水ヲ以テ洗滌シ次テ(ザロール一〇、〇硼酸五、〇水楊酸一、〇單寧二〇、〇)ヲ撒布シ或

ハ(古加因〇、一「メントール」〇、三硼酸二、〇、澱粉一、〇)ヲ一日數回撒布シテ効アリト

(十二) 萎黃病ノ 硫黃療法 H. Schultiz氏ノ Nochnagel Rey-Pailhade Nasse Roesing 等諸氏ノ學説及自家ノ經驗ヲ基

礎トシ此症ニ硫黃ノ効アルコトヲ論セリ其結論ニ曰ク
(一) 萎黃病ニシテ鉄劑ノ効ナキ者ニ之レヲ用フル時ハ著
効アリ(二) 硫黃ハ永ク連用セサルヘカラス或ル場合ニ
ハ鐵劑ト伍用スルヲ得ル(三) 然レモ消化機ニ障害ア
ル者ハ須ラク先ツ之レヲ治セサルヘカラスト

(十四) 催眠藥トシテ「トリオナル」
ノ事ニ就テハ前號ニ屢々記載セシ處ナルカ今又 Bayer 氏
ノ經驗ヲ記サンニ氏數多ノ患者ニ之レヲ應用セリ其成
績ハ敢テ他藥ニ卓絶スルニアラス又全ク副作用ナシト
云フヘカラス用量ハ〇、五—四、〇ナリト雖モ通常一、

〇チ以テ適量トス適應症ハ單純及神經性不眠、ハルチ
ナチオン及マリヤ性精神病憂鬱病ニ効アリ彼ノ疼痛性
ノ病症ニアリテハ謨兒比涅ノ勝レルニ如カス

(十五) 「グアヤコール」ニ就テ「グアヤコール」 Guanacool
ハ化學上「モノメチルエテン」 Monomethylæther C₆H₄

(OH)(OCH₃)ニシテ水様透明ノ大ナル稜方形結晶ナリ爽
快ナル香氣ト灼燦ノ味ヲ有シ、一四五ノ比重アリ水
ニハ一ト五〇ノ比例ニ溶解シ「アルコール」ニハ隨意ニ
溶ク

「グアヤコール」ハ近來結核ノ特效藥迄稱セラル、者ニ
ノ其作用「クレオソト」ニ酷似シ同シク制菌ノ作用ニ基
クナリ此藥ノ内用及皮下注入ハ動物試驗上結核菌ノ發
生ヲ抑制シ或ハ撲滅スルノ効アリト H. Grisebach 氏ハ
云ヘリ

(十六) 結核性膀胱加答兒ノ療法。Lugs 氏ハ尿ノ著シク
膿性トナリ尿意頻數ニシテ時々血液ヲ混スル者ニ五ト一
〇〇、〇ノ昇汞水洗滌療法ヲ應用セリ此法ハ初メ著シ
キ疼痛アルカ故ニ預メ古加因水ノ注入ヲ要スト此ノ如
クノ惡徵ノ輕快スルニ從テ五日、十日、一ヶ月、三ヶ
月間ヲ隔テ、反復スヘシト

ハ化學上「モノメチルエテン」 Monomethylæther C₆H₄

月間ヲ隔テ、反復スヘシト

(内 外 新 説)

(十七)慢性淋疾ノ療法 Schwenkers 氏ハ頑固ナル慢性

淋疾ニ初メ二十五%ノ「レソルチングリスリン」液ヲ

「ブーシ」ノ媒介ニ由テ尿道内ニ挿入セリ然ル時ハ分泌

非常ニ増加スト雖モ第四日ニ至リ減少ス此ニ於テ二十

%ノ三格魯化醋酸チウルツマン氏注入器ニ由テ尿道内

ニ入ル、此ノ如クスル時ハ一時ハ諸症増悪スルカ如キ

傾向アリト雖モ後ニハ漸々輕快スト

(十八)「フンケル」及「カルフンケル」ノ防腐的療法

Eugensmin 氏ハ此症ニ左ノ藥液チ用エテ罨法若クハ實

質注入チ行ヒテ効アルヲ説ケリ

處方 コロ、ホルム 三〇、〇 桂皮油 一〇、〇

石炭酸 一一三、〇 樟腦油 五〇、〇

又方 コロ、ホルム 三〇、〇 丁子油 五一二〇、〇

結麗阿曾篤 一一二、〇 樟腦油 五〇、〇

又方 昇 汞 〇、一一〇、三 石炭酸 一一三、〇

酒精 一〇、一二〇、〇 韶 水 九〇、〇

又方 水楊酸水銀 〇、一一〇、三 水楊酸 一一二、〇

酒 精 一〇、一三〇 韶 水 八〇、〇

又方 沃度水銀 〇、一一〇、三 沃度丁幾 一一二、〇

クワセリン 五〇、〇 韶 水 五〇、〇

右罨法料

處方 石炭酸 〇、一一〇、二 昇 汞 〇、〇〇五、〇、〇

食 鹽 〇、〇七 韶 水 一〇、〇

又方 石炭酸 〇、一一〇、二 水 曹 一、〇

重 礪 酸 曹 一、〇 クワセリン 二、〇

コロ、ホルム水 八、〇

又方 坐魯兒 〇、五一一、〇 石炭酸 〇、一

沃度仿謨 〇、三〇、五 依的兒 〇、一

酒 精 六一八、〇

右注入料トナス

(十九) 結核性潰瘍ノ温瘡 *Jeanne* 氏ハ結核性潰瘍及其

他ノ頑固ナル潰瘍ニ堪ヘ得ヘキ丈温食鹽水ヲ「ガーセ」

ニ浸シ直ニ創面ニ貼布シ數枚ノ綿ヲ被ヒテ嚴密ニ綑帶

ヲ行フ法ヲ稱用セリ此ノ如クノ氏ハ二名ノ結核性潰瘍

ト二名ノ頑固ナル潰瘍ヲ治癒セシメタリト

抄譯曰此法ハ余カ嘗テ木村教授ノ「クリニク」ニ於

テ經驗セシ處ニ一女子ノ大腿ニ生セシ潰瘍ノ百方

其効ナキ者ニ此温罨法ヲ用ヒテ良効ヲ治メタルヲア

リキ

(二十) 妊娠班ノ療法 *Julius* 氏ハ此症ニ〇・三—三〇・〇

ノ昇汞水ノ塗布ヲ稱用セリ

◎骨折診断ノ一法

(*Riforma med.* 1893. *Guni* 7.)

Valiana 氏ハ骨折ノ診斷ニ打診及聽診ヲ用エタリ其法ハ

檢者ハ聽診器ヲ骨折部ヨリ稍遠リタル部分ニ貼シ助手

ヲシテ聽診器ノ近傍ヨリ打診板ト槌トヲ以テ漸々骨折

部ニ向テ折タシムル時ハ初メハ純粹ノ音ヲ發スルト雖

モ骨折部ニ近クニ從テ不純ナル處ノ音ヲ發スト云フニ

アリ

◎尿中檢糖法

(*Berl. klin. Wochenschr.* 1893. *S.* 255)

Frank 氏ハ尿中ノ糖分ヲ檢出スル一新法ヲ發見セリ其

法ハ凡ツ五立方仙迷ノ尿ト同容ノ水ヲ試驗中ニ入レ然

ル后〇・五ノ鹽酸フェニールヒトラチン及〇・一ノ醋酸

奈篤倫ヲ加ヘ二十分間水浴上ニ煮沸シ三—四時間放置

ス若シ糖分ノ存在スル者ハ斜狀結晶沈澱 (*Glykosaizon*)

ヲ生スルヲ見ル又糖分ノ尿中ニ存在スルヲ非常ニ少ナ

ク〇・一%ニ達セサル時ハ小ナル厚キ針狀結晶トナリ

テ現ハルト

◎瘰癧ノ寄生物ニ就テ

(La riforma medica 1893 No. 23)

Foa氏ハ癌腫患者ノ十人(中九人ハ乳癌一名ハ肺ノ癌腫)ニ就テ病的組織ノ精細ナル黴菌學的検査ヲ行ヒシニ常ニ同組織中ニム微小体 Oocidian ノ存在スルヲ証明セリ此黴菌ハ常ニ中央ニ位シ周圍ヲ包膜ヲ有スル「ヘマトキシリン」ニ由テ染色セラルヘキ「プロトプラスマ」ニ由テ包圍セラレ時トノハ葉狀ノ突起ヲ出シタル者ニ變化スルヲアリ而シテ特異ナル性質ハ「ヘマトキシリン」ニ由テ染色セス「エオシン」ニ由テ橙黃色ニ染メラル、ニアリ后ニハ此物無數ノ小片(恐クハ胞芽ナラン)トナリテ癌腫細胞中ニ侵入シ漸々蔓延スト云ヘリ

◎肺梅毒ノ一例

(Internat. klin. Rundschau 1893. No. 20)

Brenner氏ハ肺梅毒ノ一例ヲ報告セリ四十三歳ノ營養佳

良ナル一女子既應中梅毒ニ罹リシヲアリ目下鼻欠損、潰瘍及其他一般ノ確實ナル梅毒症狀アリ加之甚シキ咳嗽多量ナル膿様ノ粘液様ノ喀痰アリ左肺ノ前面及后面濁音ヲ呈シ多數ノ大水泡音アリ他部ニハ毫モ變化ナカリキ熱ハ高カラス肝及脾ハ少シク肥大セリ依テ沃度加里一、五ヲ與ヘ且同一%ノ蒸氣吸入ヲ命セリ然ルニ患者ハ四週ノ后ニ喀痰及咳嗽全ク消失シ僅ニ單一ナル水泡音氣管支音ノミトナレリトB氏ハ之レヲ肺ノ梅毒ナリトセリ

然ルニD. Ref.氏ハ之レヲ駁シ曰ク此患者カ果ノ梅毒ナルヤ否ヤハ甚ク疑ハシ著者ハ何カ故ニ結核菌ノ検査ヲ度外視セルヤト——余輩ハ云フ『近來結核診斷濫用ノ世中B氏ノ如キ者アルハ亦一興ト』

(以上四件)

綠山人抄錄

醫 事 統 計

◎金澤病院外科部手術表投

會員 R、Ⅳ、投
 金澤病院外科部ニ於テ昨年十月一日ヨリ本年二月二十
 八日マテ五ヶ月間ニ手術セシ入院患者ノ主ナル者左ノ
 如シ

病 名		姓	年 齡	職 業	術 式	入 院 日	退 院 日	轉 歸
右脛骨腐骨	全 痔 瘻	男	二〇	鑛 夫	切開摘出	一月十三日		半治退院
項部筋炎	同	男	二八	農 夫	開	十二月九日	一月十五日	全 治
右急性化膿性乳腺炎	同	女	二二	結髮職	同	一月十四日	一月廿九日	同
內不全痔瘻	同	女	二二	同	同	一月廿三日	一月廿八日	同
右頸後部水脈腺化膿	同	男	三二	米 商	同	一月十五日	一月卅一日	同
右先天性內翻足	同	女	一六	學 生	同	一月廿五日	二月二日	同
右慢性罌丸炎	同	男	一、一	農家族	義布斯繃帶	一月廿二日	二月二日	一月一日半治退院
右腰部下垂膿瘍	同	同	四三	農 夫	義布斯繃帶	二月二日	二月十四日	全 治
兩側慢性罌丸炎	同	女	一九	無	瘻孔開大ドライナ 一セ	一月十日	二月三日	未治退院
	同	男	五一	染 工	摘 出	一月卅一日	二月十四日	全 治

(醫事統計)

(二百十七)

同	全	左大腿骨大轉子下特發骨折	瘰癧後兩肘及兩足化膿性關節炎	左下腿腓骨側筋間膿瘍	右季助部膿瘍	右乳チストザルコム	右上膊骨外科頸骨折	右脇骨窩下垂膿瘍	內痔瘻	左慢性罌丸炎	左脛骨腐骨	復雜性直腸瘻	右大腿骨折	左大臀筋炎
同	女	男	同	同	同	女	同	同	同	同	同	男	女	男
三九	三〇	六〇	一	三二	一五	四七	二一	四三	三七	三〇	二二	三一	五八	一〇
舟問屋	農家族	足駄商	車帳場	貸座敷	教員家	八百物	農夫	稼業	硝子商	官吏	農夫	農主	官吏	農家族
切開	切開搔除	牽引	切開	切開	切開	摘出	固定帶	切開	パクエリン燒灼	切開	切開搔除	切開	牽引	切開
同	二月十日	二月八日	二月十一日	二月廿八日	二月三日	一月三十日	二月九日	二月八日	二月八日	二月十三日	二月十七日	十二月十八日	十二月廿四日	一月廿六日
三月二日	三月四日	三月三日	三月十日	三月五日	三月十一日	二月十八日	二月十二日	二月廿一日	二月廿八日	二月廿七日	二月廿六日	二月十五日	二月十日	二月五日
同	全	同	未治退院	同	同	全	未治退院	死亡	同	全	未治退院	同	同	全
	治		退院			治	退院	亡		治	退院			治

シヒリス性喉頭軟骨膜炎	右臀及大腿下垂膿瘍	外不全痔瘻	外不全痔瘻	左大臀筋炎	右鼠蹊水脈腺化膿	項部大カハルブルケル	右季助部皮下膿瘍左大腿前側筋炎	汞毒性口腔炎后牙關緊急	左大轉子部下垂膿瘍	左臀部膿瘍	右側乳癌	左背方形腰筋腸瘍	左囊腫性陰囊水腫	多發性急性筋炎
男	同	同	同	同	同	同	女	男	同	女	同	男	同	同
二二	一五	二九	三五	三八	四二	五五	一三	二八	一〇	一	五二	二四	一六	三三
紅家商	太物商	農夫	同	同	農主	農夫	農家族	漁夫	農家族	無	米商	農夫	同	遊戲師
上中氣管截開術	切開ドライナーセ	切	同	同	同	同	同	整形術	切	同	摘	切	摘	切
開	開	開	同	同	同	同	同	開	開	開	出	開	出	開
一月七日	十一月二十三日	二月八日	二月十二日	二月二十日	二月十日	二月二十日	二月廿四日	一月二十日	十一月十四日	十一月十一日	十月廿五日	十一月五日	十一月十四日	十月廿六日
三月三日	三月七日	三月四日	二月廿八日	三月一日	二月廿五日	二月二日	三月三日	二月十三日	十一月十二日	十一月六日	十一月十五日	十一月十六日	十一月廿一日	十一月十八日
全	未治退院	全	同	同	同	同	同	同	未治退院	全	同	同	同	同
治	治	治							治					

口唇惡性フルンケル	同	五三	漁夫切開	十月十三日十一月四日同
左大腿内上側大膿瘍	同	四六	稼業同	十一月十四日十一月三十日同
膀胱結石	同	四、一	農家族上膀胱截開術	十一月四日十一月三十日同
全痔瘻	同	二二	商人切開	十一月八日十一月三十日同
右下顎上行枝腐骨	女	二九	官吏家族擴出	十一月十六日十一月廿三日同
右大腿内側フレグモーチ	男	四〇	巡查切開	十一月三日十二月一日同
肛門周圍膿瘍	同	二八	農夫同	十一月廿三日十一月廿九日同
膀胱結石	同	四、九	農兒上膀胱截開術	十月廿一日十一月廿九日同
同	同	四二	農夫同	十月十六日十一月十二日同
左睪丸結核	同	四三	同カストラチタン	十月二十日十一月十二日同
左膝脰部膿瘍	同	一一	學童切開	十月十日十一月十日同
右足關節部フレグモーチ	同	三三	大工同	十一月十日十一月十八日同
火傷后右鼠蹊部癩痕畸形	女	六	乾物商切除縫合	十一月十日十一月十七日同
頸部火傷癩痕	同	七	農兒整形術	十一月廿四日十二月十二日半治退院
炎性癒着性包莖	男	一三	指物職切開縫合	十一月十日十一月廿二日全治

左 上 膊 粘 液 囊 腫	左 大 鼻 茸	右 陰 囊 膿 瘍	肛 門 后 側 全 痔 瘻	膀 胱 結 石	肛 門 周 圍 膿 瘍	右 胛 骨 下 端 カ リ エ ス	右 臀 部 膿 瘍	右 下 顎 骨 ヲ 膜 炎	右 慢 性 鞏 丸 炎	尿 道 周 圍 炎	實 扶 的 里	右 脛 骨 骨 膜 骨 髓 炎	左 下 顎 骨 腐 骨	兔 唇
男	同	同	同	同	女	男	女	同	男	同	同	同	女	同
二、九	五、五	六、六	二〇	二、七	三、四	一、六	三、九	四、六	三、五	五、五	六、六	二〇	一、五	〇、七
農 兒	農 夫	同	僧 侶	農 夫	吳 服 商	肥 物 商	酒 造 族	農 族	大 工	旅 人 宿	學 童	農 夫	農 族	農 兒
摘 出	ヒ ヴ ヲ ル 氏 術 式	切 開	同	上 膀 胱 截 開 術	切 開	切 開 搔 除	切 開	同	カ ス ト ラ チ ナ ン	切 開	環 狀 氣 管 截 開 術	切 開 ド ラ イ ナ ー セ	切 開	ミ ヲ ロ ー、ラ ン ゲ ン ベ ッ ク 氏 術 式
十 月 十 六 日	十 一 月 十 八 日	十 一 月 廿 五 日	十 一 月 十 一 日	十 一 月 七 日	十 月 廿 二 日	十 一 月 廿 五 日	十 一 月 十 七 日	十 一 月 廿 九 日	十 一 月 廿 七 日	十 二 月 五 日	十 二 月 十 一 日	九 月 一 日	十 二 月 廿 九 日	十 二 月 廿 三 日
十 一 月 十 四 日 全	十 一 月 廿 三 日 同	十 一 月 廿 九 日 同	十 一 月 廿 三 日 同	十 一 月 十 九 日 同	十 二 月 二 日 同	十 二 月 十 七 日 未 治 退 院	十 二 月 八 日 全	十 二 月 十 五 日 同	十 二 月 十 二 日 第 一 癒 合	十 二 月 十 五 日 全	十 二 月 十 四 日 死	十 一 月 廿 七 日 未 治 退 院	十 二 月 卅 一 日 同	十 二 月 卅 一 日 第 一 癒 合

(醫 事 統 計)

(三 百 二 十 一)

大膀胱結石 男
 右膈骨窩膿瘍 同
 内及中間痔瘻 女
 左肩胛骨部肉腫 男
 兩鼻粘液ホリユープ 同
 肛門周圍膿瘍 同
 兩大腿前側膿瘍 同
 尿道周圍炎 同

三九 指物職
 二五 大工
 二三 料理商
 六六 農夫
 二〇 同
 二〇 僧侶
 二七 農夫
 二六 鍛冶師

上膀胱截開術
 扶度仿謨グリスリ
 ノ注入
 切
 出
 プルンス氏術式
 開

十一月十五日十二月卅一日全 治
 十二月廿六日十二月卅一日同
 十一月廿三日十二月十日同
 十二月廿四日十二月三十日未治退院
 十二月廿五日一月二日第一癒合
 十二月廿九日一月三日全 治
 十二月廿一日一月六日同
 一月十二日一月十四日同

雜 錄

◎消毒所の設置と望む

K、 T、 生

國家開明の度に平行して諸般の事業文物と共に進歩し
 つゝ有るの日に當て誰か我人類の生命を保護するに必

要欠く可らざる所の衛生事業を非難する者あらんや而
 して目下衛生事業の最も着目す可き者は傳染病にあり
 請ふ刮目して縣下傳染病の統計表を見！窒扶斯赤痢實
 扶的里亞は年々増加して其毒牙を收めず天然痘は昨年
 來害毒を流して本年に跨り殊に近來赤痢流行の慘狀を
 見！誰か對岸の火視して其危害の我頭上に來るを恐れ
 さる者あらんや一人の病毒は万人を侵すを知らずや方

人の病毒は終に國家を侵すを知らずや就中尤も恐る可きは虎列刺にして幸に兩三年は其流行を見ずと雖ども一朝病毒の猖獗を極むるに至らば吾人は何に依てか之れを防かんとするや此際に當て防禦の法を講せざるときは恰も盲者蛇に應せざると一般縣下幾十万の蒼生何に依てか堵を安んず可き豈恐れざる可んや夫れ傳染病の消毒たる清潔法消毒薬は必要なりと雖ども吾人肉眼の及ばざる病毒は如何なる場所に潜伏するや又消毒薬に由て病毒は悉く殺滅せられしや否大に不安心を脱れず茲に最も完全無決にして有力なる者を撰めは蒸氣消毒を置て他ニ求む可らず抑も傳染病の毒素たる下等の黴菌にして百度以上の熱に逢へば悉く生活機能を失ふ者なることは世人の信して疑はざる所なり茲に於てか蒸氣消毒所の必用なること論者の贅言を待たずして明了なり然れども衛生事業は巨額の費用を要するを以て

一時に縣下一般に消毒所を設置するは或は其費額に於て許さざる者あらん故に論者は先づ縣下の中央たる金澤に第一着手として之を置き年々費額の許す限り漸々地方に増設せんことを希望して止まざる者なり識者既に見る所あり昨年縣會預算案に於ては消毒所設置の費目ありしも不幸にして議會の否決する所となれり論者は實に其費額の地方税に於て許さざりしを悲むと同時に本縣の如き他の事業の進歩したる地方に於て衛生上缺く可らざる一個の消毒所たも設立し克はさりしを疑はざる可らず論者は筆を擱するに臨て敢て望む本年は官民一致の結合を以て速に設立あらんことを

本會記事

◎第四十七回通常會

十月廿一日午後三時開會せしも會員多數の指支あり出席者十名にして小林廣君の腦に關する演説あり終て直に閉會せり

◎會員動靜

○丸山耕平氏 は來月一日一年志願兵として入營の爲め本月二十日過第四高等中學校助手及金澤病院醫員囑托を辭せり

○名譽會員黑柳精一郎氏 は病氣保養の爲め京坂地漫遊の處頃日大坂地方に於て開業せらるゝ計劃なりと云ふ

○膝川武二林虎太郎荻野義勝吉田和三郎吉野貞吉野崎彌三郎山秋勘之助木村辰次郎松森佐市島村豊次郎森岡市太郎の十一氏は今回第四高等中學校醫學部を卒業せられたり

○飯森益太郎氏は 本市茨木町五十番地へ轉居

○田中正鐸氏 博聞強記を以て醫學部に其人ありと聞へたる同氏は今度第四高等中學校教授に任せられ高等官八等に叙せられたり

○田中善敬氏同氏 は曩に新瀛地方へ漫遊せられしか今度一年志願兵として入營せらるるに就き先月下旬歸澤せられぬ

○藤井伊之吉氏 先般豫備演習の爲め上京せられたる同氏は來月七日頃歸澤の途に上らるへしと云ふ

○佐藤乙三郎氏 預て一年志願兵として服務中なりし同氏去る三日陸軍三等軍醫に任せられたり

○中村文雄氏 は今度七尾病院醫員(月俸貳拾圓)に任せられ去る七日趣任せられたり

○神保進氏 は今度本市蛤坂町一番地へ轉居

○竹中和夫氏 は先月上旬北海道にて開業せむとて家族引纏め伏木より出帆せられたり

○山崎秋津磨氏 は今度札幌病院醫員(月俸三拾五圓)に轉任せられぬ

○吉田茂人氏 は令室病氣の爲め金澤に歸任せらるゝとの噂あり眞偽は如何にや

◎寄贈書目

東京醫學會雜誌	第七卷 第十五號	同 會
成醫會月報	第三百二十九號	同 會
國家醫學會雜誌	第七十六號	同 會
法醫學會雜誌	第八十九號	同 會
福井縣醫學會雜誌	第十號	同 會
兵庫縣醫學會雜誌	第十八號	同 會
大坂興醫學社月報	第五十六號	同 社
杏林之葉	第五卷第七號	女洋醫會

醫 海 事 報

◎丸山河村兩氏の送別會

醫學部助手丸山耕平河村賢太郎の兩氏は今度一年志願兵として入營せらるゝに就き去る十八日午后四時より古寺町北間樓に於て盛なる送別會を開きたり發起者は竹腰飯森の兩氏にして來會者は高等中學校及金澤病院職員等無慮三十餘名なりき午后五時配膳一行發起者竹腰慶三氏は開會の挨拶をなし次に丸山氏は立板流水的の辨を以て謝辭を述へ終りに羊領藤井秀氏か惜別の辭あり校書數名酒尚を周施し各自充分の歡を盡して散會せしは午后十時過なりき

◎卒業披露の宴會

(萱場、加須屋、野崎三氏の)

今度卒業せられたる野崎彌三郎、加須屋武留、萱場七之助の三氏は去る十五日花月庵に於て卒業披露の宴會を開かれぬ來會者は醫學部、金澤病院の職員及三氏の

知己朋友等二十八名にして萱場氏は立ちて開會の趣旨を單簡に述へ來會者の總代は辭謝を述ふ酒酣なる時兩廓の紅裙花袖鬪々として杯盤の間を往來し和氣洋々、祥霧霽々の裏に充分の醉を盡し席上人影を絶ちしは十時を過くる二十又五分——因に期す加須屋萱場の兩氏は本月三十日頃に北海道に向け出發すると云ふ

◎北海道通信 (山崎氏書簡の中より)

▲我醫學部出身者 北海道は近來日本の金庫を以て目せらるゝか故に一攫千金の醫師漸々輻湊して全道四百七十余の多さに達せり若し此勢にして止ますんは今一二年を經過せば千名に達する亦難きに非らざるへし中に就きて我第四高等中學校出身の者を掲ぐれば横山軫氏は函館に池龜祐藏氏は天鹽國苫前郡天賣村に開業し正見伊三郎氏は石狩原田病院長(月俸三拾五圓)池田和三郎氏は天鹽増毛病院醫員(三拾圓)に新田友三郎氏

は屯田兵雇醫員(三拾圓)となりて釧路厚岸に在勤せり其他吉田茂人氏は函館に牧孝太郎氏は石狩岩見瀉に開業せらる而して山崎秋津磨氏は會員動靜欄内にも記する如く今度札幌病院へ轉せられたり我醫學部卒業生か北海道に向て如何に氣焰を吐きつゝあるやは余輩か是に喋々せずと雖も讀者諸君か業已に想像せし處ならむ

▲北海道の醫師 本道は十一ヶ國八十三郡より成り人口は移住者のみにして四十餘万の多さに達せり而して醫師の數は四百七十余名あり中に就き札幌に四十名小樽に三十余名なりと學士は僅かに八名學校卒業及内務省試験の者は百名に上らす高等中學校出身の者は廿名内外なりと云ふ

▲札幌の醫事 は元札幌病院長ドクトル、フェルザナン トグリンム氏か明治二十年赴任以來非常に進歩し同病院は院長か數多の意匠を凝らして建築せし者なり氏は

昨年八月満期解雇となり關場不二彦氏其後を受けて院長となり高田壽氏副院長たり器械万端大抵完備し病室は六棟にして病床百五十を入るゝに足る實に北海道唯一の模範病院なり醫學に關する學會には北海道醫事講談會あり會員二百余名を有し毎月雜誌を發行す其他衛生會醫會等の設けある金澤に異なる事なしと

◎松本繁正氏の消息

氏は卒業以降暫時東都に遊學せられしか一昨年小笠原島に趣き島廳の囑托醫となり傍ら自宅開業せらるゝ由今同氏か某教授の下へ投せられたる書簡を得たれば左に掲ぐへし

上略本島へ渡航以來島廳囑托醫トナリテ警察監獄等ノ醫務ニ就事シ傍ラ醫務所ニアツテ日々患者ノ診察治療ニ就事致シ居候事茲ニ殆シト足掛四ヶ年ヲ消費致シ申候併シ幸ニ風土ノ身体ニ適セル者ニ候カ頗ル健康ニ有之私ニ喜居申候本島醫務所ハ舊ト官設ノ者ナリシト雖

凡數年前ヨリ全ク獨立ノ有様ニ相成居候野生渡航致シ候直ク以前迄爰ニ勤務セシ者ハ大學別課卒業生ニシテ數年勤務セシ跡へ就任いたし一二ノヶ所ニ出張所ヲ設ケ父島全島ヲ擔任シ今日ニ至リ申候又當父島ヲ南方ニ去ルコト二十哩余ニシテ母島アリ茲ニ島廳ノ出張事務所ノアルヲ以テ別ニ又醫務所ヲ置キ他ノ醫師ヲ擔任セシメ有之候

本島ハ御承知ノ如ク熱帶地方ナルヲ以テ内地ニ於テ想像スレハ諸疾病トノ關係及固有ノ疾病等ニ就キ頗ル興味ノ點モ少ナカラサル如ク察セラレハト雖モ氣候ハ想像トハ大ニ差異アリテ極暑ノ候ト雖モ平均華氏ノ九十九度以下ニシテ本年ノ最高點ハ九十四度ニ有之候之レ僅々數日ノミニ御坐候而シテ朝夕ハ誠ニ冷氣ヲ覺ヘ極熱ノ時問ハ一日中只數時間ニシテ日影少シク傾ケハ涼風煩襟ヲ掃ヒ頗ル愉快ニ有之候此ノ如クニ御坐候ヲ以テ内地ノ如ク煩熱ヲ覺ユルコトナク却テ凌キ易キコト意外ニ御坐候只暑氣ノ季節稍長キノミニシテ頃日尙寒暖計八十四五度ヲ昇降いたし候而シテ冬季ハ決シテ平均五十度ヲ降ラス勿論暖爐ノ必要ヲ感スルコトナク誠ニ結構ニ御坐候大畧右ノ如キ氣候ニ御座候ヲ以テ敢テ疾病ニ及ホス處

ノ關係ニ就キ特筆ス可キ如キハ未ダ發見致サス又敢テ熱帶地方固有ノ疾病ノ如キモ未ダ實驗不致候得共幾分力又疾病經過等ニ就キ些少ノ差異ナキニシモアラサルハ實驗ニ徴スル處ニ御座候殊ニ皮膚病ノ如キハ實ニ種々ノ種類變症等ヲ往々經驗いたし候

元來本島住民ハ盡ク移住民ニシテ各府縣人及八丈島民ト歸化人ヲ以テ組織セル者ニシテ何レモ勞働社會殊ニ農業漁業等ニ就事スル者ニ御座候故ヲ以テ外科的患者殊ニ輕重種々ノ創傷患者ハ本島疾病中ノ尤モ多數ヲ占ムル者ニ御座候而シテ農業ハ甘蔗栽培ヲ主トスルヲ以テ之ヲ製糖スルノ季節ニハ必ス其甘蔗壓搾器械ニ誤テ手股ヲ箱入シ重症ノ挫創傷ヲ受ケ從來悲命ニ沃死セシモノ尠少ナラス或ハ切斷離斷術ヲ施シテ生命ヲ救ヒ得ル者等ニ接スルコト余ノ渡島以來モ既ニ屢々有之候然リト雖正斯ル避遠ノ孤島夫々手術準備等ハ勿論甚タ不完全目今開明ノ醫術ニ從ハントスル者ノ甚タ良心ニ恥スヘキノ至リナルハ論チ俟タスト雖此機ニ臨ミ變ニ應シ其及フ限リノ注意ヲ以テ其處置ヲ施サ、ルチ得サルハ又己ムテ得サル次第ニ御座候故ヲ以テ外科手術ヲ施スニ當ツテ往々非常ノ困難ニ遭遇スルコトモ少ナカラス又

產科術ヲ施サ、ルチ得サル場合等ノ如キ實ニ困難致シ候事屢々有之候例ヘハ自ラ術者トナリ自ラ助手トナリ實ニ八手ノ觀音様モ此クハ働ケマシト跡ニテ自ラ笑居候事モ有之候者ノ術中ノ心中チ思ヒ返セハ危險戰慄スルコトモ有之候併シ又自ラ愉快ニモ有之候之レ全ク閣下懇篤ノ教諭ノ賜ヒナラサルハナシト患者ニ接シ術ニ臨ミ日夜感銘罷在候

却說本島ニ於テハ他ニ耳目ノ快樂ヲ得ルノ道トテハ更ニ無御座恰モ仙界ノ心地いたし候併シ今ヤ内地トノ交通モ稍頻繁ニ相成リ毎年二、四、六、八、十、十二月ノ六回定期漁船ノ來港スル外時々帆船ノ寄港スルアリテ新聞雜誌ニアレ稍速ニ見ルチ得ルニ至リ少シハ無聊ヲ慰スル者ノ如クニ御座候其他毎年二三月ノ頃ハ數多ノ外國獵船薪水ノ供給ヲ仰カントシテ寄港シ大ニ雜沓ヲ極ムルコトモ有之候本年ハ米國船及英國船共廿艘モ寄港いたし候併シ平素ハ實ニ寂々タル者ニ御座候故ヲ以テ自然讀書シ或ハ歸化人ノ多キヲ以テ外國語ノ練習等ニハ又妙ニ御座候歸化人ハ英米獨佛葡等諸國ノ人種集リ居皆主トシテ漁業殊ニニ龜捕獲ヲ職業ト致シ居候右ノ如キ次第ニ御座候ヲ以テ日曜等閑隙ノ際ハ銃獵或

ハ釣魚或ハ「ボート」ノ練習等ヲ以テ無上ノ快樂ト致ス
 位ノ事ニ御座候又風土ノ異ナルヲ以テ動植物等内地ノ
 者トハ全ク異種ニシテ該學ノ標本採集等又而白キコト
 モ有之候故ニ小生渡島以來業務ノ傍ラ動物ノ剝製植物
 ノ乾壓等ヲナシ時々大學教室へ送付いたし候併シ鳥類
 ノ如キハ其種類誠ニ少數ニ御座候若シ錦地學者者當島ノ
 産物標本御望ミノ方モ有之候得へハ得ラル、限リハ御
 送リ中上度心得ニ御座候此ノ如ク時々海濱及山間ニ運
 動シ一種ノ快樂ヲ得ルノ道アリテ爲メニ身体ハ大ニ爽
 快ヲ感シ申候得共吾々日新ノ學術ニ就事スル者時々大
 家ニ接スルノ機ヲ得ルノ難キハ又自ラ悲シキ限リニ御
 座候併シ一利一害之レ數ノ免カレサル處ト自ラ明ラメ
 糊口ニ齷齪貴重ノ光陰ヲ送リ申居亦面ノ至ニ御座候又
 近來頻リニ南洋行ノ流行從ツテ便船ノ木島へ寄港スル
 者モ又稀ナラサルヲ以テ一回ハ航行實見致シ度キ念モ
 有之候得共之レ射利的ニアラスンハ徒ラニ奇ヲ探ルニ
 止マルノミ敢テ危險ヲ冒スノ價値ナキ者乎ト躊躇決セ
 サル處ニ御座候云々

落葉片々

五里霧中彷徨散人

送卒業生諸氏

卒業生諸氏、諸氏か多年瑩雪の勞を積ひて、這回の盛
 典を受けたるは、誠に目出度の限りにそある。然れど
 も諸氏は之れを以て満足すへからず、否余輩は諸氏か
 此盛典を受けたるに因て、漸く男一匹となりたるを知
 ると雖も、未だ多年辛酸を嘗めたるの効果を社會に發
 表せしを聞かざるなり、世人稍もすれば、高等中學校
 を無用物視し、之れを破却せん事を勤む、諸氏は確か
 に是等の勁敵を滅盡すへきの義務を有するなり、高等
 中學校か輿論に因りて抹殺せらるゝか、或は將來に倍
 々繁昌ならむ乎は、當路者の盡力と否とに因て別るゝ
 者に非らず、一に其製産物たる卒業生の如何に因る、諸
 氏の責任も亦重且大ならずや。

高等中學校の落成

金澤の中央廣坂通の邊、煉瓦石造の大夏雲間に聳ゆる

を見る、問はずして知る是れ新築の第四高等中學校なるを、其構造の壯麗なる、輪奐の美なる、蓋し北國隨一の建物ならん、人は云ふ、有爲なる數多の徒弟を養育する、先づ完全なる校舎を得ざるへからずと、余輩は望む、『瓦石を包むに錦を以てせむ乎、寧ろ金塊を被ふに眞鍮を以てするの實を掲げし事を』と

貧民の救療策

貧民か社會の成立に重要なる地位を占有する事は、何人も首肯する處なるへし、若し富人のみを以て社會を満すどせば如何、勢ひ社會は其運轉を停止せざるへからず、近者貧民問題の緊急なる事件として取扱るゝ亦己むを得ざるに由る、此時に際りて、余輩か雲烟過眼に附すへからざる者あり、何ぞ、曰く貧民救療の事之れなり、西哲は云ふ『貧民は社會に重要なる丈又社會に惡毒を流す』と、余は貧民救療の事を獎勵するに當て、此一

向か如何に諸君の腦中に反應するかを見む、又曰く『貧者は富者より願使せらるゝの復讐として疾病の原泉を造ると』若し此復讐を防かむとならば、幾百の力士劍客を雇聘せんより、寧ろ一の完全なる救療策を講せよ

◎金澤醫會

去月十七日醫會堂に於て開會し兼て金澤市長及び警察より囑托せる檢疫醫を投票せしに左の諸氏當撰せられたり

- | | | | | |
|-----|-------|----|----|-------|
| 第一區 | 藤田繼太郎 | 不破 | 鎖吉 | 才紀甚太郎 |
| 第二區 | 守部 謙造 | 津川 | 恒 | 松井 宣正 |
| 第三區 | 上田 計二 | 高木 | 喜衛 | |
| 第四區 | 島 元恭 | 石井 | 秀齊 | 江間 謙治 |
| 第五區 | 宮橋 行隆 | 池上 | 政雄 | 友田九八郎 |
| 第六區 | 岡本 三作 | 清水 | 衛 | 永江 眞之 |
| 第七區 | 鈴木 忠順 | 岡島 | 良吉 | 吉田 義一 |

又先月全會に於て當撰せし種痘醫は左の如し

- | | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 第一區 | 橋本 貞衝 | 藤田繼太郎 | 室島津志馬 |
| 第二區 | 曲直瀬景福 | 伊藤 清治 | 納村 良吉 |
| 第三區 | 相澤 端監 | 田上 貢 | |
| 第四區 | 藤島 善藏 | 佐藤 順三 | 石井 秀齊 |
| 第五區 | 藤田 春堂 | 松本 古壽 | 松崎良次郎 |
| 第六區 | 村上 文齊 | 清水 衛 | 北村 雄平 |
| 第七區 | 遠藤 昌平 | 小坂 大安 | 高橋 東伯 |
- 又全會に於ては市内醫師の業務上取締の爲めに審査委員を撰擧せしに左の諸氏當撰せられたり
- | | | |
|-----|-------|-------|
| 第一區 | 不破 鎖吉 | 吉澤 常徳 |
| 第二區 | 守部 謙造 | 松井 宣正 |
| 第三區 | 上田 計二 | 高木 喜衛 |
| 第四區 | 上杉 寛二 | 島 元泰 |
| 第五區 | 宮橋 行隆 | 河崎 規矩 |

第六區 久保 百貳 岡本 三作

第七區 鈴木 忠順 岡島 良吉

次て審査委員規約起草委員を撰擧せしに左の三氏當撰せらる

上田 計二 松井 宣正 島 元 恭

尙前號に記載せし縣知事よりの諮問案は調査委員に付托せしを以て次會に於て議事を開くと云ふ

◎縣下の赤痢

本縣下に於ける赤痢は初夏の頃は散在性なりしも九月十月に至り大に蔓延して殆んど全縣下至る所該病の届出なき地なし只江沼能美の兩郡は極少數なり今本縣衛生部の報告に依れば各郡の患者數左の如し

九月分	金澤	江沼	能美	石川	河北	羽咋	鹿島	鳳至	珠洲	合計
患者數	二五	二	三四	四一	七五	四二	三一	一六	五一	三五
死亡數	二	二	一	六	二二	二四	四	三	八	六二

十月分 患者數	三四	一	五九二	九二三五	二四一七	五八三	八
死亡數	一六	一	三二五	四四一七	六	三二二	三六

◎縣下の室扶斯

九十両月間に届出し數左の如しと云ふ

九月分	金澤	江沼	能美	石川	河北	羽咋	鹿嶋	鳳至	珠洲	合計
患者數	一〇	三	五一〇	〇	六	七	七	〇	四八	
死亡數	一	〇	〇	三	〇	〇	四	〇	八	
十月分	患者數	一三	六二七	七	二	八一五	二六	一	二〇五	
死亡數	三	〇	三	二	〇	一	三	五	〇	二七

◎第四高等中學校及び醫學部新

築落成式の景況

十月三十日第四高等中學校内に於て校舎落成式を舉行せられたり當日は晴天にして校門には大國旗を交叉し校舎各窓には交叉せる小國旗を掲げたり全日午后三時

前より續々來集せる來賓は將校縣官法官國會議員尋常中學師範工業等の各學校長郡市長縣會議員各寄付金者等無量二百余名にして文部省よりは大臣代理として殊に木下學務局長臨場せり定刻に至れば第一撃柝にて生徒職員着席第二撃柝にて來賓諸君着席するや先づ大鷹校長起て式壇に昇り一揖して校舎新築落成式を舉行する旨を告げ來賓諸君の臨場を謝する挨拶あり次て本校の學歴現今の學景を演說せり次は久留文部技師校舎工事に就て來歴を報告し次て木下學務局長の演說醫學部生徒總代藤川武二本部生徒總代某兩氏の祝辭縣知事の祝辭岡野由雄兩代議士の演說内山師範學校長の祝辭等あり終て閉場し來賓諸君は隨意校舎内を縦覽し第三撃柝にて饗應室に就き立食の饗應あり主客共和氣洋洋の間に充分の祝意を表して散會せしは午后八時頃なりき尙全校には祝意を表せん爲め卅一日は一般の寄付金者

十一月一日二日は一般公衆三日は各學校生徒に縦覽を許せり縦覽者は雨天なるにも係はらず雲の如く蟻の如く實に數万人の多さに達し校舎の宏麗各室の整備器械圖書標品の夥しきに一驚を喫せざる者なし殊に醫學部の標品器械は素人の見聞せざる者多く爲めに入目を引くこと多かりき今各室陳列品の主なる者を左に列擧せん素より繁雜の際なれば其大畧に過ぎず

(動植物標品室) 猛禽類、哺乳類、兩棲類、節足動物、爪巴虫、軟体動物、下等動物、牡蠣化石涉鳥類、搔撥類、鳴禽類、魚類、浮水鳥類、啄木鳥類、涉虫類、鳩鴿類、昆虫類、

(動植物研究室) 植物細胞及組織圖、脂葉植物、實驗用植物材料、海藻類標品、變形菌培養羊齒培養鏡下「プレパラート」蕨肝「シストーム」毛髮縱斷「プレパラート」試藥棚動植物解剖用器具「ミクロトーム」菌

類圖海底動植物採集器「トル」動物解剖ノ仕方(蛙)

(動植物標品第二) 蝶類、昆虫類、蠶模型、雙子葉類、

單子葉類、松柏類、羊齒類、石松類、地衣類、海藻

標品(一)紅藻類(二)褐藻類(三)綠藻類、下等動物分

類標品(一)原生動物(二)海綿動物(三)腔腸動物(四)

蠕形動物(五)刺皮動物(六)節足動物(七)軟体動物

(八)尾索動物(九)頭素動物、人体骨格猿骨格珊瑚水

母模型

(雜部) 日本原始地圖、太古地圖、中古地圖、近古地

圖、日本風方向圖、雨量圖、植物帶圖、

(書學教室) 生徒日科書數十葉寫生用模型繪具各種

(工學器械室) 縮尺、曲尺、劃度器、定規、「ステーション

ヨンポイント」圖引具「グラニメートル」六分儀、双眼

鏡晴雨計分飛時計平面測量盤「ハントグラフ」照尺經

緯儀「タケオメートル」水準儀羅針儀

(工學教室) 圖書標品生徒製圖各數十葉

(圖書室) 內科外科眼科產科婦人科法醫科衛生藥理科

科數學科各分置せり其他枚舉に隙あらず

(理學室) 教室用意室天秤室光學室分光器實驗室空氣

唧筒通有偏有性ノ試験証明ニ關スル器械模型各種、

噴水器液体比重器濃水器水平器浮秤液壓証明器械水

中ニ入ル可ラサル者ノ比重計排氣器濃氣器風琴音又

音調器蓄音器音振計音分拆器板振計氣壓比熱計熱線

反射屈折傳導ノ諸器械氣熱計膨脹計沸騰計鉄冷縮計

空氣壓ニ關スル熱驗器氣壓ニ關スル氷溶解器空氣比

熱計氣体膨脹計「ラジオメートル」單動蒸氣熱量計

「ハ、ン」氏釜各種斲鏡類双眼望遠鏡眼模型光線ノ學

說ニ關スル諸器械分光驗器分光計屈折計「サツカク

メートル」靜電気ニ關スル諸器械電流計電氣應用ニ

關スル諸器磁石ニ關スル諸器械電氣燈蒸氣脹力計落

下試驗器天体望遠鏡方解石蒸氣器械模形電氣磁石音
振數計「マイナモ」電信機海底電信線

(化學室) 濾過器乾燥器「フンセン」氏唧筒鑽石化石元

素標品分解器化合量分別蒸留器「アルカン」燈瓦斯体

重計復吸子實習室には化學に關する諸器械陳列せり

(婦人科產科器械標品室) 病的寫真十數葉患者病類統

計表子宮鏡各種穿顱器破碎器骨盤計產科鉗子洗腔器

卵巢手術器械腔鏡「ベッサリ」各種妊娠冷凍縱斷圖

卵巢囊腫標品妊娠子宮畸形胎兒肉樣鬼胎葡萄樣鬼胎

兒標品等三十余病の骨盤模型卵生發育標品模型各

種亞佛里加土人產褥哺乳育兒畫幅一葉

(生理器械標品室) 「ルードウツヒ」氏血流計「ポリクラ

フ」蛙心臟器「フライシユル」氏眼底光線屈折驗器檢

糖器「ヘーリンク」氏「スペクトロスコープ」ノイラ

メビメートル」彈發筋記器「ホーレン」氏電氣變流器

「ジユボア」氏鍵「レオゴルド」氏誘發電氣「ツアイト、マグネット」「キモクラフィン、メテローム、シフユレソテアール、レオトーム」檢電器「アホクロマート」顯微鏡肝細胞摸型比重計動物解剖手術器檢乳器補色兔及犬固定器人身圖

(眼科器械標品室) 視力檢査表各種色盲檢査表各種兩眼瞻視圖畫各種雙眼鏡眼底病的圖各種眼病理解剖組織圖各種眼科手術式寫真十葉病的寫真數葉璉斲檢眼鏡各種檢眼洋燈視野計眼筋作用實習摸型病的標品十數種人工嚙針電氣燒灼器電氣磁石義眼眼臉成形術白內障摘出虹彩切除剝離斜視トラホーム窄出角膜穿孔水晶晶囊切開霰粒腫摘出周圍切開乱切淚管切開等ノ各手術器械淚管プーシー迷障器(殊ニ眼科用ニ適スル兔面狀ノ者)角膜計斜視計開險器各種眼科用銳匙前房洗滌器、鑷子狀銳匙屈拆試驗璉斲管眼病的圖視力

計角板異物摘除針各種顯微鏡(油浸裝置)

(外科器械標品室) 病的寫真十數葉皮膚病圖各種耳鼻咽喉圖十葉擔荷骨格表病的標品二百余种喉頭鏡燒灼器各種動脈鑷子類鈞類縫合針類縫合系銀線類ガーゼ類缺類喉頭手術器械「コッホ」氏注入器食道手術器械顯微鏡用洋燈骨盂支持器「ハイス」氏上肢固定器下肢牽引鐵道「フォルクマン」氏副夾綳帶材料及綳帶卷血角吸乳器脊錐鼻耳咽喉科器械口腔齒科手術器械膀胱尿道手術器械「器直腸肛門手術器械檢脈器」ホタイン」氏吸引器磁石電氣義布斯刮斷器持針器各種電氣燒灼器括斷器鉗子類骨手術器械脊椎彎曲矯正器各種脫腸帶各關節固定器切斷刀類氣管切開ヘルニヤ手術器械獨灌腸器指端矯正器成形術器械斜頸治療器械股及膝關節保持器「サイル」氏靴

(病理室) 染色料及器械扁平培養器血清器「シヤンチ

エ」氏「ミクロトーム」滅菌器病理標品數十種

(内科室) 「ヒルシユマン」氏電氣大裝置管狀聽診器双

耳聽診器「ガレマン」氏聽診器感傳電氣打診器溫神計

積神測定器吸引器尿管檢查器浴溫計骨孟計檢糖胸圍計

吸入器肺量計呼吸力測計脈波計血球計「ツァイス」氏

顯微鏡胃洗滌器平流電氣頭部冷却器疾病中毒檢出器

(解剖室及標品) 人身解剖圖骨格腦脊髓神經諸通路摸

型「ツァイス」氏大顯微鏡解剖器械脈管注射器各器臟

標品骨格各部標品人身體摸型各器管摸型胎生摸型

(死体剖見室) 解剖臺

(組織實習室) 顯微鏡十數臺各組織標品染色具及器具

(藥學教室) (第一用意室) 揮發油標品結晶摸型植物標

品、天黃松葉良姜顯微鏡下「プレバラー」植物圖回

加料百合科菌科礦物標品「モース」氏硬度計原素標品

礦物結晶角度計稀有植物標品藥品動物標品生藥標品

支那藥標品(第二用意室)瓦斯分拆器「ガイスレル」氏

亞爾個保兒定量器瓦斯發生器「メスマルフ」及分液漏

斗、熔融洋燈圓筒狀洋燈「ルーフ」ヘリテス」氏洋燈

「キモカトール」金壺「ナアリザトール」ヒクノメー

トル」水晶玻璃玉石乳鉢檢糖器大形「ヘーゲル」比重

計「ヘルマン」氏「アルコール」計「セルチャント」氏

牛乳定量器「フエセル」氏「ラクトスコップ」「クエウエ

ツンチーム」氏牛乳計酒中亞爾個保兒定量器(第三

用意室)「モール」氏「バランズ」「カソメートル」乾燥

器化學用諸器械(定性分拆室)水素發生裝置分拆諸器

械「クエルタル」氏室素定量器天秤室(定量分拆室)

定量分拆用原液鑑定用藥品分拆諸器械「フンセニウ

ス」氏「ユキシカートル」比重計乾燥器「アルコール

「メートル」「ソックスレット」氏脂肪浸出裝置砒化水

素發生器蒸氣室(製煉室)「ヘーケル」試檢藥有毒瓦斯

室蒸留器蒸發器「シヤモット」氏「ムツフェル」爐大小

「シーム」氏「フ」製煉諸器械

以上各室各擔當主任の職員詳細に説明し縦覽者をして利益を得せしめたること實に高等中學の眞値を公衆の腦底に注入して本校隆昌の基礎を固からしむるは其落成を祝するに最も適當なりと信す (終)

◎第四高等中學校醫學部卒業生

本年九月より初まりし全部の卒業試問を完了し本月及第せられたる諸氏は左の十四名なり (イロハ順)

- 林 虎太郎 荻野 義勝 萱場七之助
- 加須屋武留 金子 龍敬 吉田和三郎
- 吉野 貞吉 野崎彌三郎 山秋勘之助
- 松森 佐市 藤川 武二 木村辰次郎
- 嶋村豊次郎 森岡市太郎

◎天長節奉祝會

本月三日醫會堂に於て金澤醫會の奉祝會を舉行せり會員一同式場に整列し會頭恭しく天長節を奉賀し一同最敬禮す終て祝盃を舉げ會頭 天皇陛下万歳を三唱し一同之に和す終て散會せり
又同日金澤病院職員一同は午后五時より淺ノ川花月庵に於て天長節祝宴會を開き中々盛會なりき

◎猪子博士異境に逝く

嗚呼悲哉我醫界に於て屈指の壯年博士猪子吉人君は獨乙伯林府留學中八月三日腸窒扶斯に罹られ種々手厚き治療を受けられしも天醫海に幸を與へす終に九月二日午前八時心臓麻痺を以て永眠せられたり前には「ドントル」松本鵬氏の凶音あり天何を有爲の士を奪ふの甚たしきや

廣

告

(廣告)

會 告

本會々計整理上甚々困難ニ付會費未納ノ諸君ハ至急御
送致被下度候素ヨリ本會ノ機關タル雜誌發行ハ會費ヲ
以テ成ル者ナレハ未納者多キニ從テ止ムヲ得ス紙數ヲ
減セサル可ラサル場合ニ立致リ候間速ニ御拂込アラソ
フヲ希望ス

明治二十六年十一月

金澤醫學會

廣 告

本會ニ向テ論說實驗雜錄等御出草ノ諸君ハ爾今小生ハ
宛テ御送稿可被下候

石川縣金澤病院內

編輯委員

竹腰慶三

醫學士山田謙治君著

婦人病學 卷之三

膾、外陰部、膀胱ノ疾病

頁數 二百七十餘 正價 金九拾錢

挿圖 四十餘 郵稅 金六錢

右今般刻成ニ付拙店ヨリ發賣致候間陸續御購求被成下
度此段謹告仕候也

石川縣金澤市尾張町

雲 根 堂

●轉居廣告

小生儀今度本市茨木町五十番地へ轉居致候間此段辱知
諸君ニ告ク

明治廿六年十二月

飯森益太郎

(三百三十八)

明治廿六年十二月八日印刷
明治廿六年十二月十五日發行

非賣品

編輯者 瀨戸卯三郎
石川縣金澤市油車町二十六番地

發行兼印刷者 吉本次郎兵衛
石川縣金澤市石浦町二十三番地ノ二

發行所 金澤醫學會事務所
石川縣金澤市西町藪ノ内一番丁一番地